

宮崎まちづくり活動団体情報



【オクオカ竹資源活用協議会】

第3回目の竹伐採作業を実施(会長 荻野昌彦さん)

〇いよいよ孟宗竹の整理伐採事業が始まりました

令和5年2月25日(土)、長年放置されてきた孟宗竹林の整理伐採を実施しました。令和4年6月に発足した「オクオカ竹資源活用推進協議会」は、順調に作業を進めてきました。9月と1月には、くらがり渓谷下流の遊歩道沿いの枯れた竹の処理作業を実施しました。そして今回、宮崎まちづくり協議会の役員と有志に参加いただき作業が始まりました。今後各地域で作業を実施することを考慮し、孟宗竹の伐採と搬出作業の手順等を確認する作業と位置づけをしました。直径20cm前後の孟宗竹は、重くしかも急傾斜地の作業は危険を伴うものでした。開始のミーティングで、作業手順の確認をしました。伐採と搬出手順として4mに裁断し積み上げます。枝葉は、チップ処理するように、場所を決め集積方法の確認をしました。裁断した竹材は、幸田町へ運ばれ活性炭の原料に利用されます。チップ処理後の枝葉は、トン袋に貯め土壌改良剤として活用していただくことになりました。後日の搬出を考え道路側に袋を置き、チップパー機を移動させながら作業を実施しました。手順を確認してからの作業は、大変スムーズに行われました。しかし、予想通り孟宗竹は重く、裁断場所への移動も大変でした。全員が安全確認をしながら、順調な作業を実施することができました。

〇作業状況画像：急傾斜地の竹伐採は、周辺の安全を確認しながら進められました。





【教育環境部会】

歴史文化探訪委員会（委員長 清水力さん）

○令和4年度事業「雨山 山歩きマップ」設置完了

令和4年度の歴史文化探訪委員会の活動目標は、雨山城址、風越峠及び西山（西藏）に加えて、天使の森を含んだ「雨山山歩きマップ」を作成することでした。会議を重ねた結果、昨年12月26日に「雨山歩きマップ」を雨山ダム手前の登山口に設置することができました。（写真参照）

各委員は、毎月第2火曜日の午後7時に市民ホームで定例会を開催し「雨山歩きマップ」の完成に向け話し合いを行いました。初めに大まかな図案を地域おこし協力隊の松田（旧姓服部）さんにお願しました。その後細かい部分の修正を雨山町の清水昂喜夫妻が担当し、かなりの時間をかけ作業を進めてくれました。他のメンバーは設置に向けてコースの整備を実施。行程ごとに所要時間や距離を測ったりしました。

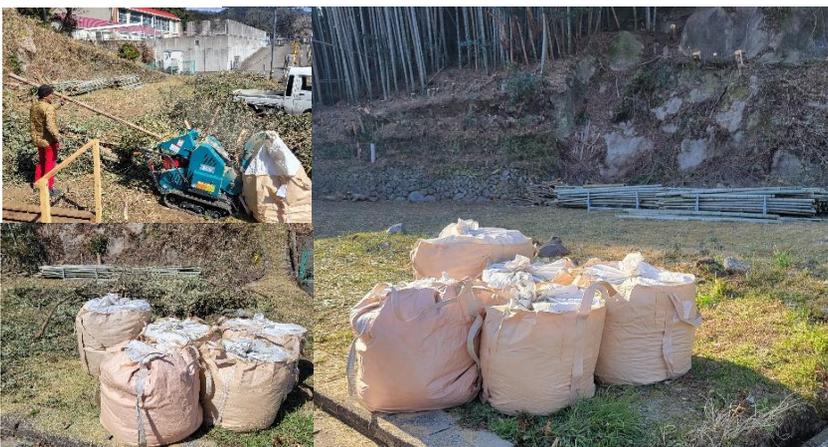
昨年の秋ごろの完成を目標にしていたが、表示する文章や写真の選定を何度もしているうちに年末になってしまいました。最近、コロナ禍終息の影響もあったかも知れませんが、雨山ダム周辺や雨山城址及び天使の森を訪れる人が多くなっていると感じています。そこで来年度は、コース途中の案内板を追加設置し、コースでの事故が発生しないよう、安全で安心なコース整備に努めなければと考えています。

【オクオカ竹資源活用協議会】

枝葉チップ処理作業実施（会長 荻野昌彦さん）

○2月25日作業の枝葉チップ処理

令和5年3月3日（金）前回作業で大量の枝葉が残り、追加の作業が実施されました。チップターの騒音とチップのつまりでて固まりましたが、有志の方のお手伝いで無事終了することができました。地域の皆様のご理解に感謝します。



【里山こうぼうをつくる会】

絆の森体験会の冊子が完成（会長 梅村順一）

○あいち森とみどりづくり事業の記録

「絆の森」親子自然体験案内活動記録



石原林道協議会（里山こうぼうをつくる会）

石原林道協議会が主催して始めた親子自然体験活動は今年で5年目となりました。年4回程度の自然体験会を開催しています。「ビオトープの観察会、自転車体験会としてデュアスロンとマウンテンバイク体験、森で遊ぶ、森の動植物を知ろう」と題して、岡崎市内外の親子をお招きして、自然体験会を開催しています。その活動成果を記録誌として発行しています。

岡崎市の地域交流センターの情報誌「まちのワ！」は、市民活動を紹介しています。3月号に絆の森が紹介されました。石原町の絆の森を活用して、宮崎学区の関係人口拡大に努めていきます。



【宮崎まちづくり協議会】

宮崎学区ミライづくり委員会（委員長 梅村順一）

○第6回 宮崎学区のミライづくり委員会開催

Commitment

令和5年2月1日（水）第6回目となる宮崎学区のミライづくり委員会が開催されました。地域の課題が掘り下げられ、三つの方針について確認されました。



今後の活動は、「宮崎学区のまちづくり宣言」をまとめていくこととなります。全体構成を確認し、プランやビジョンの期間を定めます。一番大切なのがプランの名称です。【持続可能な宮崎学区のために移住促進プラン】を策定していきます。宮崎学区を訪れた関係人口の皆さんにも、移住して暮らしてみたい町となるよう、学区民とともに魅力あふれる故郷にしてみよう。